

社会医療法人 北海道恵愛会札幌南三条病院

5年生存率について

1) 5年生存率について

5年生存率とは、がんと診断されてから5年後の生存状況を表したもので、がん医療を客観的に評価する重要な指標です。たとえば100人の肺がんの患者さんが、手術や抗がん剤治療をして5年経った時に何人の方が生存しているのかを示す数字です。50人だとすると「5年生存率は50%である」ということになります。

当院では、がんの診断・治療のために受診した患者さんの情報を集め、把握・分析をする院内がん登録を行っております。そして、院内がん登録の情報を集計して5年生存率の公表を行っております。

当院以外でも、5年生存率の公表を行っている施設がありますが、施設ごとに患者さんの年齢や性別、持っている病気によって状態が異なるため、施設間の治療成績の良し悪しを決めることはできません。病期分類は数年ごとによって変わっていきますし、新しい治療もどんどん増えていくため、公開されている最新の治療成績と単純に比較することもできません。

当院の5年生存率をご覧いただく際には、共に載せております臨床指標[クリニカルインディケーター]の情報も併せてご覧ください。

当院での治療を考えている、また治療を行っている患者さんの参考にしていただく場合、下記について十分にご留意のうえ参考にさせていただきますよう、お願い申し上げます。

2) 集計対象

2004年～2011年に当院で肺がんの診断、治療を行った患者さん

3) 対象部位

肺（国際疾病分類腫瘍学 局在コードC340～C349）

4) 病期分類

UICC(国際対癌連合)第6版 臨床病期

病期 (stage)は、腫瘍の大きさ、リンパ節転移、肺以外の臓器への転移を基にⅠ～Ⅳ期に分類されます。患者さんの状態にもよりますが、Ⅰ期・Ⅱ期とⅢ期の一部は手術療法、Ⅲ期の一部とⅣ期は抗がん剤治療が標準的な治療になります。

5) 起算日

生存率を計算をし始める最初の日。

当院で診断を行った患者さんは診断日、他施設で診断されて当院で治療を開始した場合は当院初診日が起算日になります。

6) 各項目について

症例数	集計対象人数
全症例	集計対象人数全て
手術症例	集計対象人数のうち、手術を行った人数 (外科的、または体腔鏡的切除を行った症例で、診断目的の手術症例は除きます)
死亡数	5年以内の死亡を確認した人数
実測生存率	がんと診断された人の5年後の生存率。 がんで亡くなった場合も他の病気で亡くなった場合も、すべて含まれます。 具体的には、死亡数を症例数で割る、という計算を行います。
相対生存率	実測生存率の値は患者さんの年齢や性別によって影響を受けます。例えば、患者さんが高齢であればあるほど、がん以外の病気で亡くなる方が多く含まれますので、全体の生存率が低くなります。 がん以外で死亡した影響を除外するために、その患者さんの同じ年齢・性別の人が5年後に生きている確率で補正したものが相対生存率になります。 具体的には、実測生存率を同じ年齢・性別の集団が5年生きている確率で割る、という計算を行います。
予後不明	起算日から5年後の時点で患者さんの健康状態が確認できなかった人数
追跡率	5年以内の患者さんの健康状態が確認できた割合 一般的には95%以上が望ましいとされており、当院では残念ながら95%に満たなかった年もありました。